

(公財) 米盛誠心育成会だより 第二二号

米国の大統領選挙で

これからの日本は

理事長 米盛庄司

平成二十六年もあと一ヶ月余りとなりました。アベノミクスでデフレからインフレへの掛声に、大都会と大企業だけは好況の様ですが、「地方創生」の方は自治体の予算編成が景気対策に配慮が足りず、民間は消費を節約し売上減となり、物価は値下げの方向にあり、アベノミクスは素通りして豊かさの実感はありません。世界的な不況と比べると日本は恵まれていると言いう人も居ります。

一方、日本人は云うべき事も言わず、従軍慰安婦問題など反日感情の強い外国人が、日本を散々批判している事にも口を閉ざして無念の想いを耐えて居ります。我々が戦時中受けた教育では、東洋は欧米先進国に植民地化されているから、外国の支配を追い出して満州国のような独立国になるように始めた戦争と信じさせられていたのに、結果、七十年前の戦争がなければ独立出来なかった国迄日本の侵略とだけ言う声が大きく、我々は反論せずに世界の中でじっと耐えている残念な時代となって居ります。

終戦の年、戦争前の領土と工業力も全て0になった国土で、米国からの小麦粉、大豆粕を主食としていた国民が、昭和十九年には東京オリピックを開催して、日本の復興振りを高速自動車道や新幹線開通などをシンボルとして実現させ世界中の国民に日本人の勤勉さ、技術能力の高さを驚嘆させました。

戦後、軍閥・財閥もなく、民主主義国家として歩んできた我が国は、米国に自由主義国家を築いて来た国民性に誇りを持って大和民族の数を減らしてはなりません。外国人を移民させて人口減に歯止

めをかけ、人口数を保つと言う様な考えには私は強く反対します。

明けて平成二十七年には当財団も二十五年目、四分の一世紀を迎えることになりました。記念事業として記念誌を出版しますので希望者は投稿下さい。

奨学生修了者の進路

平成二十六年三月、四名の奨学生が卒業しました。それぞれの進路でなお一層ご活躍ください。進路先は、次のとおり。

- ◇ 高専生(二名) 西日本高速(株) 鹿高専 専攻科
- ◇ 大学生(一名) 鹿児島大学大学院
- ◇ 留学生(一名) ダイハツ工業(株)

平成二十六年採用の奨学生

奨学金給付希望者の中から、学校等からの推薦書及び選考委員の面接の結果、新たに三名が採用決定しました。財団発足以来の採用者は、三百五十七名になりました。

採用者は次のとおりです。

- * 鹿児島高専都市環境デザイン工学科四年生
- * 鹿児島大学工学部建築学科 四年生
- * 留学生(中国)
- 鹿児島大学工学部三年
- * 本年度の奨学金給付者は継続者を合わせ六名です。

平成二十六年度の研究団体助成金が決定

今年度の研究団体への助成金は、次の四団体に決定し、7月28日鹿児島大学学長室において、米盛理事長から各対象団体代表者へ、助成金目録の贈呈を行いました。



* 「茶の機能成分を利用した新しい茶ー金属ナノ材料開発」

(理工学研究科・(株) 下堂園機能性茶研究助成金グループ)

* 「畜産排泄物のカスケード型資源化プロセス技術の開発」

(工学部環境化学プロセスグループ)

* 「紅麹焼酎製造を可能にする製麹及び発酵装置開発に向けた基礎研究」

(農学部紅麹焼酎製造研究グループ)

* 「バイオマス利用のための有用微生物のスクリーニングと産業への利用」

(石橋松二郎准教授)



鹿大学長室で贈呈式

米盛誠心育成会の奨学生となって

鹿児島大学工学部 建築学科 4年生

採用通知書交付及び奨学金給付式の際、理事長や理事の皆様との話の中で、私は鹿児島で生まれ育ちながら、全く鹿児島について知らないことを知りました。私は「現代の若者」のレッテルの中に生きている。奨学生として採用していただかなければ、きっと鹿児島を振り返ることなく無知のまま年を重ねていったと思います。それは大変恥じるべきことだと思います。今回の採用をきっかけに分かることができました。早速頂いた奨学金を手本に本を買いに行きました。久しぶ

りに訪れたそこは、どこか懐かしく新鮮でした。勉学に励むのはもちろん、これからは鹿児島についてもパソコンやスマートフォンなどではなく、書物や人から学んでいきたいと思えます。鹿児島について以外にもたくさんの活字に触れ教養を身につけ、米盛誠心育成会の奨学生として誇りと自覚を持ち、他の学生の模範となれるよう努力していきます。

また、奨学生を希望する後輩たちのよき手本となれるよう努めていきます。

鹿児島工業高等専門学校

都市環境デザイン工学科 4年生

私は土木・建築・環境の3つの分野を学んでいます。4年生に進級してからは、より専門的な学習に励んでいるところです。その中で今一番関心のある科目は都市計画です。都市計画の歴史から都市計画法まで知らなかったことや普段から持っていた疑問がなくなることや普段から都市計画の授業は胸がおどります。課外活動では建築同好会の部長を務めており、先日、先生方と計画していた見学会を実施しました。霧島国際音楽ホールのみやまコンセルや霧島アートの森などをまわり、普段立ち入ることの出来ない場所やお話を聞くことができました。外部アプローチや設備など私たちにとって、とても勉強になりました。様々な人との交流を深めることもでき、一人で黙々と図面をひくことが多い建築同好会にとって、心のリフレッシュにもなりました。私は住まいづくりにとても興味があり、将来住まいづくりに携わる職業に就きたいと考えております。学校では学べない実際の現場や職場の雰囲気慣れたいと思いいンターンを志願いたしました。学校で住宅の計画から設計までを学びましたが、条件のもと一人で進めていく授業とは違い、実際にお客様が大きな買い物をし、住む家づくりに携わることの責任やあらゆる場所・場面での人と人とのつながりをこのインターンシップで学びたいと考えています。

夢の実現のためにも何事にも自ら進んで挑戦する強い心を持ち、努力を怠らないで前へ進み続けていきたいと思えます。頂戴いたします奨学金を有効に利用し、日々感謝の気持ちを忘れず勉学に励みます。

鹿児島大学工学部

環境化学プロセス工学科3年(留学生)

貴会から頂いた奨学金のおかげで勉強のための本をたくさん買えることになりました。自分の専門を簡単に説明すると、化学工学を使って環境にやさしい新エネルギーか産品を研究することです。今、中国の環境状況は非常に厳しいし大気汚染もかなり深刻な状態になっています。昨年の冬の空気汚染の程度もPM2.5になっており日本の九州地域にも影響しました。私の出身地瀋陽は中国の北の方で、冬の時には炭を燃焼して熱を取るの不燃燃焼の炭の微粒子が大気の中に残って人間の健康に悪い霧ばいになります。私の勉強したいバイオマス新エネルギーは燃焼しても大気にも汚染原因にならないエネルギーです。頂いた奨学金を勉強のために使って、将来環境にやさしいエネルギーを開発して、日本、中国や世界中で環境にやさしい持続可能なエネルギーをたくさん使えるようにしたいと思えます。

私は、奨学金をいただいて感謝しております。これからも専門の勉強は前より力を尽くすと共に、日本文化を精一杯学びたいと思えます。その上思いやりの心を生かして自分の持てる能力を生かして周りの人々、学校、そして社会に対して自分の責任を尽くそうと私は思っています。

継続奨学生からの便り

鹿児島大学教育学部

健康教育コース 4年生

学生生活の最後の期である4年後期に向けて、気を引き締めて頑張っています。

高校地理歴史の免許取得のため、自分の夢である教師になれるよう、少しでも幅を広げられるように、免許取得に向けて日々精進しています。前期の単位も無事全部とる事が出来たので、後期は引き続き地理歴史の免許の単位取得と、卒業単位の取得に向けて頑張っていきます。

また、卒業に向けて卒業論文の作成も行なっています。アンケート調査を基に作成していくので、周りの人たちの協力を得ながら、提出締め切りの1月末日までに完成させるよう、アンケートの作成や集計、インタビュー調査など毎日資料と格闘しています。

夏季長期休業中は、中学校のバスケットボール部の指導の手伝いに行ったり、高校の手伝いに行ったりとこれまでやってきたバスケットボールの経験を子どもたちに伝え、自分自身のコーチングのスキル向上のためにも毎日汗を流していました。コーチライセンスの講座も受講していて、資格取得の為に活動しているところです。審判活動では10月26日に行われる日本公認審判員の査定会で合格し、日本公認審判員の免許がもらえるよう週末などは鹿児島県各地に出向き審判活動もしています。9月には教育実習もあり、母校に実習に行き、子どもたちや先生方から教師のやりがいや、仕事の大変さなど学びました。

4年生の後期は、大学生活最後なので、「文武両道」毎日を精一杯過ごし、悔いのない大学生生活を送りたいと思います。理事長をはじめ財団の皆様、家族、友人など様々な人に支えられながら今を精一杯過ごせることに感謝し、少しでもその恩返しが出来るように日々精進していきたいと思っています。

鹿児島大学工学部

環境化学プロセス工学科3年(留学生)
3年前期の授業が無事に終り、夏休みに入りしました。今回の夏休みは日本で目の斜視の手術をするため帰国できまらなかったが、手術以外の時間を充実させよ

うと考え、8月お盆休みを利用して私は親戚の叔父と一緒に淡路島と四国に旅行に行きました。

鳴門海峡の渦潮が世界でも有名であると聞き、私達は鳴門市へ向いました。

渦潮は流れの速い本流とその両サイドの緩やかな流れの境目付近で渦が発生し、早い本流の流れに流れの遅い水が引き込まれて渦潮が巻くものと考えられています。実際に渦潮の見ごろで観潮船に乗船し肉眼で渦潮を見て、自然が織り成す不思議と驚異に感動しました。鳴門市から出て、私たちは徳島市へ向いました。ちょうど運が良く徳島市の阿波踊りの最後の日に間に合いました。私の事前調査により阿波踊りは徳島県を発祥とする盆踊りの一つであり、約400年の歴史があり、夏季になると徳島県内各地の市町村で開催されるとの事です。中でも徳島市で開催される阿波踊りは国内最大規模で最も有名であり、四国三大祭りに数えられるほどです。劇場で阿波踊りを観たが、席が遠く離れたせいではっきり見えませんでした。大人も子供に問わず全員参加で迫力満点なショーを上演させ、凄く感動しました。これでも少し日本伝統文化を実感でき、楽しかったです。

旅行を終えて、9月手術の全身検査を受けました。採血、レントゲン、心電図など色々検査をして全身麻酔に耐えられるかどうかを確認しました。結果、体は特に異常がなく全身麻酔ができると先生の方から言われました。手術日もだんだん近づいてくるので、この間私もしっかりと体調管理し、病気になるまいよう手術日まで頑張ります。

期末テストは期待しているとおり前期よりよくなりましたので、これで前期のリベンジができたと言えるでしょう。しかし、これからも気を抜かず3年後期も頑張りたいと思っています。

鹿児島大学工学部

海洋土木工学科 3年(留学生)
今年も無事に単位を全部取れ、3年生

前期も成績優秀賞を取れました。累積GPAも高く3.44で、これからもこの調子で頑張ります。

中国語で「请不要辜负这个时代」という本を読みました。内容は、私たちが現在生活している世界では確かにいろんな問題があると考えますが、以前よりだいぶ改善していると思います。そのため文句を言わずもつとこの世界がよくなるため頑張ります。

この夏休みは帰国して、上海、天津、北京、いろんな所へ行き、現在の中国の大都会はどのようなものかを理解できました。また、両親と会い、お互いの健康状況がわかり安心できました。

これから3年生後期になり、大変な時期だと思えます。研究室を決める事や、就職する事などがあるので忙しいです。また、9月22日〜24日まで海岸測量実習に参加するので学んだ事を実際にします。奨学金をいただき本当に助かっています。まず、教科書、本が買えるので学業に大変役立ち、また鹿児島県のいろんな所へ行き鹿児島の文化や景色を体験できました。

イギリス研修に参加して

鹿児島大学工学部

建築学科 4年生

8月末よりイギリスに行ってきました。人生初めての海外でした。日本からイギリスへの移動時間は計24時間。体験したことのない長旅でどっと疲れたのを覚えています。機内ではもちろん英語。飲み物を聞かれた際に「water」と言ったらオレレンジジュースが出てきて、「こんな簡単な英語も通じない」と、この先がすごく不安になりました。しかし、ロンドンについてみると、まるで絵本の世界！不安は吹っ飛び、イギリスに魅了されました。あちらの建物は、地震がないせいか、日本の建物の作り方とはまるっきり違いました。細い柱、薄いスタブや壁、なにより外壁が煉瓦。訪れた街にはそれぞれに統一感があり、とても美しく

かったです。イギリス研修で一番感じたことは言葉が違うことの難しさ、伝えることの大切さ、そして、伝えようとする賢明さが大事なことを学びました。これから社会にでて、いろいろな人と関わりを持つようになりませんが、言うのではなく、「伝える」を心がけ、頑張っていきたいと思えます。私は卒業設計で種子島の港を設計します。4年間で学んだことをイギリスで学んだことを最大限に活かせる設計をしたいと思っています。

伊敷小・草牟田小へ図書を寄贈

10月27日、米盛理事長が伊敷小に出向き、学校から購入希望のあった図書の贈呈を行いました。児童代表から、「米盛文庫の本で読書する喜びや郷土の歴史を学べ、学習面に生かせています。これからも本を大切にします。」とお礼の言葉が述べられました。

なお、草牟田小へは草牟田町内会発行の「草牟田遺産」三五〇冊を贈呈しました。



鹿児島高専港湾現地見学会の実施

10月28日、今年も鹿児島港安全協議会の御支援を頂き、国交省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所及び県鹿児島地域振興局発注の工事個所を環境技術デザイン工学科3年生



41名に案内しました。この企画は建設産業への関心を高めるとともに、港湾工事への理解を深めてもらうことを目的に実施したのですが、学生からは「机上の学

習とは異なり、理解がより深まる。」「港湾工事の現場は初めてで、進路選択の参考となった。」「ケーン製作過程、海上での据付けなどスケールの大きさに衝撃を受けた。」等の感想が寄せられました。



◎事務局から

① 財団奨学生終了生の皆様へ

平成3年9月に設立された当財団は、来年度(平成27年度)25年目を迎えます。これまでの財団の歩みを記念誌として発行いたします。事務局では、修了生の皆様からの奨学生時代の思い出や奨学金への想い、あるいは社会人になってからの近況などテーマは自由です。メール、FAX、手紙等でお知らせください。

② 財団理事の再任

公益法人制度改革に伴い、理事の任期が2年間となったため、移行後の6月の評議員会において、7名の理事全員が再任されました。任期は28年6月までです。

青木孝子氏、徳重芳久氏、西牟田義實氏、藤田晋輔氏、森田齊氏、玉川哲生氏、米盛庄司理事長

③ 住所変更の連絡を

終了者で住所の変更等ありましたら、必ず御連絡下さい。また近況等ありましたらお知らせください。

〒890-0014
鹿児島市草牟田二丁目二一七
公益財団法人 米盛誠心育成会事務局
神田・水元

☎(099) 226-0205
FAX(099) 224-1562
E-mail kanda@yoneg-net.co.jp